

おうらまち

議会だより



中央保育園の入園式

平成25年 3月定例会

平成25年度予算可決（一般会計・各特別会計）

一般質問 【10人の議員が町の考えを問う】

田部井健二議員、神谷長平議員、坂井孝次議員、松村 潤議員
原 義裕議員、大野貞夫議員、塩井早苗議員、本間恵治議員
小島幸典議員、小沢泰治議員

- 可決された議案…………… 3～4
- 予算質疑…………… 4
- 一般質問…………… 5～13
- わたしのふるさと等…………… 13～14

No135

平成25年度一般会計予算

74億6,500万円の予算を可決 対前年度比2.1%減

3月定例会

平成25年第一回定例会が、3月8日から19日まで開かれました。平成25年度の一般会計予算や各特別会計予算等の議案が提出され、審議の結果原案のとおり可決されました。



建て替え予定の長柄幼稚園

平成25年度の予算規模は、一般会計で、74億6500万円、前年度比1億5700万円、2・1%の減額としました。

歳入の増減額の大きなものは、固定資産税や都市計画税の減収が見込まれる一方、町民税や町たばこ税の増収が見込まれることなどから、町税収入見込額は34億5140万2000円(3・0%増)としました。

地方交付税は、前年度と同額9億4000万円を見込みました。また、実質的な地方交付税である臨時財政対策債についても、前年度同様5億6000万円を計上しました。

町債は7億5610万円(22・3%減)ですが、その内7割以上は、臨時財政対策債が占めています。

繰入金については、財政調整基金、減債基金、公共施設等整備基金及びふるさと振興基金から合わせて4億4079万9000円の繰り入れを計上しました。町税収入は増加しているものの、国庫支出金の減額は

それを上回る減収となっており、前年度に引き続き財政調整基金繰入金を計上いたしました。

歳出について、増減額の大きなものとして、老朽化した中央児童館の改築事業が1億2098万円、石打町営住宅建設事業は2期工事の前年度に前倒しとなったことから4億235万4000円減の4958万4000円としました。また、老朽化した高島幼稚園の改築に向けて1476万円、長柄幼稚園の改築事業として1億9320万3000円を計上しました。

今後の景気動向については未だ不透明であり、現時点では明確な将来像を描くことが困難な状況のままとなっています。国の国債依存度は限界を超えたと言われており、今後はこれまでのような地方への財政措置が確保できる保証はないと言わざるを得ません。

こうした中、当町の財政状況も、これまで以上に厳しくなっていくことが予想されます。予算の執行に当



たり、事務事業の見直しや合理化をより一層推進するとともに、事務執行に当たる職員の資質の向上を図ってまいります。そして、町民の皆さんと共に、大いに意見交換を行いながら、新たな時代に即応した行政のあり方を模索しつつ、行政の執行に当たってまいる所存であります。

町民の皆様と議員各位の一層のご支援とご協力を心からお願ひ申し上げます。
(町長の施政方針抜粋)

可決された 議案

邑楽町職員の給与に関する条例の改正

東日本大震災後、加須市に役場機能を移転した、福島県双葉町に派遣する職員の地域手当の追加、勤務時間1時間当たりの計算方法の改正、臨時的任用職員の賃金種別を月額・日額に時間額を加える改正をしました。

邑楽町長、副町長及び教育長の給与の特例に関する条例

4月1日から1年間、町長20%、副町長・教育長15%、それぞれ給料が減額となりました。

邑楽町税条例の改正

地方税法及び国有資産等所在市町村交付金法の一部を改正する法律の施行に伴い、地域決定型地方税制特例措置、通称「わがまち特例」が導入され、条例規定の整備を図りました。

邑楽町福祉医療費の支給に関する条例及び邑楽町地域活動支援センターの設置及び管理に関する条例の改正

地域社会における共生の実現に向けて、新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律が公布され、「障害者自立支援法」の題名が「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」、通称「障害者総合支援法」に改められたことに伴い、関係条例を改正しました。

邑楽町新型インフルエンザ等対策本部条例

新型インフルエンザ等対策特別措置法が施行され、市町村対策本部設置に関し、必要な事項を定めました。

邑楽町小口資金融資促進条例の改正

群馬県小口資金融資促進制度要綱の改正に伴い、条例を改正しました。

以下の条例は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律が施行されたことに伴い、市町村の条例で定めることとなりましたので、新たに制定しました。

邑楽町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例

邑楽町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例
介護保険法改正に伴い、地域密着型介護予防サービスの施設基準等について定めました。

邑楽町営住宅等整備基準条例

公営住宅法改正に伴い、これまで国が法令で定めて

いた町営住宅の整備基準について定めました。

邑楽町道の構造の技術的基準を定める条例

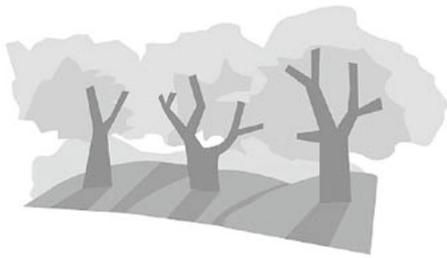
邑楽町道に設ける道路標識の寸法に関する条例
道路法改正に伴い、町道の構造の技術的基準や町道に設ける道路標識の寸法に関する基準を定めました。

邑楽町都市公園条例の改正

都市公園法改正に伴い、これまで国が一律に定めていた都市公園の設置基準等について定めました。

邑楽町移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例 邑楽町移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める条例

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の改正に伴い、バリアフリー化に関する歩道等の構造基準や特定公園施設の設置基準を定めました。



邑楽町一般廃棄物処理施設の技術管理者の資格を定める条例

廃棄物の処理及び清掃に関する法律の改正に伴い、町が一般廃棄物を処分するために設置する、一般廃棄物処理施設における技術管理者の資格に関する基準を定めました。

邑楽町水道事業給水条例の改正

水道法改正に伴い、法令等で規定されていた、布設工事の監督を配置しなければならぬ水道工事並びに布設工事監督者及び水道技術管理者の資格に関する基準を定めました。

■平成24年度補正予算額

会計別	予算現額	補正額	予算総額
一般会計	84億3,304万円	3億1,607万円	87億4,911万円
国民健康保険特別会計	31億7,823万円	1億1,095万円	32億8,918万円
後期高齢者医療特別会計	2億1,478万円	△398万円	2億1,080万円
介護保険特別会計	16億6,217万円	624万円	16億6,841万円
下水道事業特別会計	3億0,465万円	△67万円	3億0,398万円
学校給食事業特別会計	2億6,945万円	△940万円	2億6,005万円
水道事業	収益的支出	△6万円	5億1,400万円
	資本的支出	0万円	2億0,001万円

■平成25年度当初予算額

会計別	本年度予算額	前年度予算額	対前年増減率	
一般会計	74億6,500万円	76億2,200万円	2.1%減	
国民健康保険特別会計	29億9,639万円	28億6,980万円	4.4%増	
後期高齢者医療特別会計	2億0,318万円	2億1,124万円	3.8%減	
介護保険特別会計	17億0,100万円	16億4,989万円	3.1%増	
下水道事業特別会計	3億1,226万円	2億9,573万円	5.6%増	
学校給食事業特別会計	2億5,040万円	2億7,470万円	8.8%減	
水道事業	収益的支出	5億1,547万円	5億1,397万円	0.3%増
	資本的支出	1億5,121万円	2億0,021万円	24.5%減

予算質疑

Q&A

新年度予算質疑(要旨)

新年度予算について、活発な質疑が行われました。以下は、抽出した項目の要旨です。

Q 神谷長平議員

平成25年度当初予算に、財政調整基金から9000万円を取り崩して充てている。内容を精査し、基金を使うべきではないと思うが。

A 町長

町民のことを考えて事業計画を立てている。その結果、不足額が生じたので基金を使用した。

Q 小島幸典議員

第3子出産祝金について、町長の公約では20万円に戻すとある。共稼ぎ家庭等の生活弱者に手を差し延べて欲しい。

A 町長

子育て環境を改善することは大切で、引き続き努力する。

Q 大野貞夫議員

国民健康保険特別会計の繰り出し金を一般会計から増やす考えはあるか。

A 町長

国も県も保険基金の安定制度の繰り出し依

Q 本間恵治議員

鶯区画整理事業は、平成17年から24年まで事業費16億円、進捗率23%で、平成35年完成を目標に掲げ実施しているが、今後どのように取り組んでいくのか。

A 町長

予定地は家屋が多く、十分配慮しながら計画に合わせ進めていきたい。

Q 小沢泰治議員

社会教育施設建設準備事業12万1000円は、公民館検討委員会の予算と思うが、町原則に立ち返り、事業執行を進めるべきだと考えるが。

A 町長

人づくり、社会教育施設については、十分整備し、環境を整えることが大事だ。慎重に対応する。

一般質問

一般質問は、3月11日及び12日に行われました。質問には、10人の議員が登壇し、町の行政事務などについて執行部の考えをただし、活発な議論が行われました。

公共施設の整備について

田部井健二議員 町で維持管理している公共施設、公共用地が何力所あるか。また、公共的財産と普通財産にすみ分けがしてあるが、すみ分けの基準はなにか。

町長 件数については、庁舎2、公共財産47、普通財産14、60件を超える公有財産施設がある。行政財産と普通財産に分けてあり、行政財産は、公共団体が事務執行を行うための財産。また、住民の皆さんが一般的に共同利用する財産である。普通財産は行政財産以外

の一切の財産、いわゆる行政財産の用途が廃止されたものである。

田部井健二議員 公共施設、いわゆる箱物の中には昭和40年代に建設されたものもまだまだある。山梨県の中央自動車道笹子トンネルの事故、天井板が崩落し多くの人が命を落とした。邑楽町にはトンネルはないが、非常に老朽化した建物が、非常に老朽化した建物、手を加えなければ危険と思われるような施設も幾つかある。町当局として十分に

配慮し、これからは、そういうところにも予算をつけて、きちんと維持管理をしていく時期と思うが。

町長 議員の言うとおり、町も老朽化した施設等について順次そのような形で進めていく。

田部井健二議員 次に、古い建物でなく、現在検討中である邑楽町中央公民館建設検討委員会、18名の委員が大変な努力をしている。既に4回の検討委員会が終わり、道半ばである。町長に検討委員会から中間報告等があったのか。

町長 検討委員会の検討結果について、報告を受けている。今後に向けて集約をしている段階である。

田部井健二議員 1点だけ確認したい。この検討委員会、7月、8月を目安と聞いている。その後の進展は今年度はないのか。

町長 7月、8月頃までにとお願ひしてある。その結果の状況によって、基本設計、それらも含めて協議を

いただく場も考えている。

田部井健二議員 この中央公民館建設に向けて、平成25年度については、一切予算を計上していない。予算の伴う事業は、25年度には進めていただきたくない。当たり前の話である。基本設計という思いがあるのなら、最初から当初予算に載せておくべきだ。

基本構想、あるいは基本計画について協議していただいている。その後については結果が出てから検討したい。いずれにしても、手順を踏んだ中で、改めて議員の皆さんに予算についてお願いする。

その他の一般質問
・体罰問題について

手順を踏んだ中で

町長 現在、検討委員会に



行財政運営について

神谷長平議員 町税収入の平成17年度から23年度の過去7年間の決算状況を見ると、37億円から41億円と横ばいになっている。歳出では、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計及び介護保険特別会計は、平成24年度においては前年度より2億4000万円の増額。また、25年度では前年度より1億6900万円の増額となっている。今後、高齢化が進むにつれて町民福祉の予算が年々厳しい状況になってくる。町長は、

今後どのような財政運営に
取り組んでいくのか。

町長 一般会計、特別会計
について年々歳出が増えて
いることは、そのとおりで
もある。一般会計において
は、集中改革プランという
国の指導もあり、あわせて
管理運営をするための費用
の削減に向けて努力し、歳
出を少なくしていくことに
努めていく。介護予防に力
を入れて、介護認定を受け
る方を少なくし、経費の節
減を図っていく。

神谷長平議員 今後、自主
財源確保に向けて、町長は
どのような考え方を持っ
ているのか。

**自主財源の
確保に努力**

町長 自主財源を図って
いく色々な手法がある。産業
集積を図るための工業団地
造成も行われてきた。今後
も、町の土地利用を進めて
行く必要がある。自主財源
を確保できるように努力し

ていく。

神谷長平議員 過日のマス
コミに、群馬県では工業用
地の不足から、市町村と連
携をして造成を進めるた
め、昨年8月に市町村から
の要望を受けたとの掲載が
あった。全体で10カ所、中
毛で2カ所、西毛で3カ
所、東毛で5カ所、計17
8haの候補地を選定し、開
発に向けて準備を進めてい
ると。この東毛の5カ所の
中に邑楽町は含まれている
のか。

町長 邑楽町では、平成18

年6月、県の産業経済局に
産業集積地として要望をし
てある。今回、報道された
中には入っていない。

神谷長平議員 マスコミに
掲載された部分については、
昨年の8月である。その時
点では、この場所について
再度の要望をなせしなかつ
たのか。県と一体になれば、
その手続関係も有利に進め
られたのではないのか。
町長 既にその該当地区と
いうことで県には扱ってい
ただいているので、要望を
あげなかった。

**公園と道路の
管理費用削減について**

坂井孝次議員 今の日本
は、どこへ行っても少子高
齢化という大きな問題を抱
えている。少子高齢化がこ
のまま進むと確実に自治体
は衰退する。邑楽町でもそ
の変化は既に出ている。例
えば町税では平成23年度35
億2500万円、24年度33

億5100万円、25年度
34億5100万円と、23年
度に比べて1億円から2億
円の減収になっている。町
ではどのような経費削減を
行ったのか、2つほど紹介
して欲しい。
町長 今までに実施したの
は、職員の減少による人

件費の抑制が一
つ。それから給
食センターの搬
送業務を民間委
託した。

坂井孝次議員
邑楽町は、自然
に恵まれたよい
町だと思ってい
る。景観のまし
悪しは、「主に
公園と道路で決
まる」と言われ
ているので、公
園と道路の管理
費用削減について質問した
い。町の公園維持管理費は、
年間約1000万円から1
500万円かかっている。
管理の一部を町民に協力し
てもらおう考えを、町長はど
のように思うか。

町長 町民に管理してもら
うことは、大変すばらしい
提案だと受けとめてい
る。

坂井孝次議員 次に、街路
樹の管理について、町長は
他市町村と比較し、どのよ
うに思っているか。

ると感じている。

坂井孝次議員 私も街路樹
の管理では、見劣りすると
思っている。私が調査した
結果から提案を含めた報告
をする。町道幹線22号のベ
ニカナメは、枯れが目立つ。
次に、高木の植え込み間隔
が邑楽町は短い。22号線の
ハナミズキは6m。5号線
のスタジイは7mから7・
5m。このように木の間隔
が、それぞれ道路によって
違う。これは美観の関係で
やむを得ないと思うが、木



町道幹線5号線の街路樹

が多ければ多いほどお金はかかる。またスダジイはハナミズキに比べ約2倍のお金がかかる。それから、低木の刈り込みでは22号線の高さは65cm。5号線は50cm。国道354号線は70cm。太田市ラフアイエット通りのオムラサキは、70cmから90cmの高さで管理されている。刈込が少ないため非常に元気に育って見える。それから、高木の植え込み間隔は、国道354号線では10m。大泉町の商店街は、

十分参考にして
取り組む

副町長 景観を保つためには合理的な手法が必要である。したがって、これからは十分参考にして取り組んでいきたい。

通学路の安全対策について

松村 潤議員 昨年4月23日、京都府亀岡市で、無免許運転の軽自動車が集団登校中の児童と保護者の列に突っ込み、3人が死亡、7人が重軽傷を負った。同月27日には千葉県館山市でバスを待っていた児童らに軽自動車が出っ込み、1人が死亡するなど通学途中での児童の事故が相次いだ。こ

れを受けて文部科学省、国土交通省及び警察庁から全国に通知が出され、すべての公立小学校で通学路の総点検が行われた。町においてはどうか。
学校教育課長 点検個所については、小中学校合せて47カ所である。現地確認では横断歩道の設置、ガードレール、カーブミラー、信

号機等の設置要請があった。

松村 潤議員 今後、児童生徒の安全を最優先にしたハード、ソフト両面の取り組みが大事だ。国の平成24年度補正予算、平成25年度当初予算で防災・安全交付金が計上された。この交付金は、社会のインフラの総点検、維持補修等に使われるほか、通学路の安全対策にも支援できる事になっている。これを効果的に活用すれば、安全な通学路の整備を行う際、町の負担が軽くなるということである。総点検の結果を点検のための点検に終わらせないために、信号機の設置、交差点のカラー舗装化など具体的に、目に見える形で対策を講ずるべきだと考えるが。

歩道の設置に努力

町長 社会資本整備の交付金を活用し優先度が高い道路、歩道の設置も含め進めていく努力をする。

松村 潤議員 事故が起きる前に対策を講ずる事が最も大切だ。しかし通学路が安全に整備されても子どもは、いつ、どのような行動を取るかわからない。友達との話に夢中になり、信号や車の存在を忘れ、思わず車道に出てしまう事もあり得る。交通安全白書によると、交通事故死者数の中で歩行中に占める比率が上がっている。今、その犠牲になっているのが子ども達などの交通弱者である。子ども達にとって通学路は楽しい場所でもあり、危険な場所でもある。だからこそ



通学路での登校風景

子ども達自身の安全を守るために、交通安全教育の充実強化等々、ソフト面の取り組みも大事であると思うが。

教育長 子ども自らが、自分の身の安全や危険の回避、そのような心を育てる事は大事で、これは車の両輪だと思う。小学校においては交通安全教室、自転車安全教室、安全協力の家を教師と子どもで現地を見ながら歩くという取り組みをしている。

松村 潤議員 このソフト面の取り組みについては、子ども達が主体となって、子どもの目線での安全マップを作成し、学校に張り出したり、家庭への配布もしてはどうか。
教育長 子どもの目から見た安全マップは作っていない。学校の方へ啓発していきたい。

その他の一般質問
・選挙投票環境について
・災害時相互応援協定について

観光振興について

原 義裕議員 第五次総合計画には「観光資源として、点在する歴史的遺産やシンボルタワーを中心とする中央公園があり、白鳥が飛来する多々良沼公園(カバ沼)を観光の核として誘客運動を展開している。首都圏から70キロ圏内で、観光客を呼ぶには良い立地条件があり、観光開発できる余地が多く、観光を産業として育成することが課題」とあるが、考えを聞きたい。

町長 観光資源は多くあり、観光事業の発掘は大切だ。シンボルタワーも開館以来28万人の来客を迎え、白鳥飛来の時期には、地域の皆さんのご努力により「白鳥まつり」等を行う中で、3万6000人からの来場があり、観光事業の振興はこれから進めていく。

原 義裕議員 予算・決算書から見た観光事業費の現状

を産業振興課長に聞いた。状態を産業振興課長に聞いた。

産業振興課長 観光事業費の平成23年度決算額は76万4000円、24年度予算額では80万円である。

原 義裕議員 報告の数字では余りにも少な過ぎる。この金額では、首都圏から呼び寄せることも観光開発もほとんどできない。

観光資源を有効利用

町長 予算は少ないが、昨年のクリスマスの時期にシンボルタワーコンサートを約80人の参加で行い大変喜ばれた。また、町内の各神社仏閣を参拝する「七福神めぐり」では、皆さんのご協力を頂き、町外からも多くの参加者がある。今ある観光資源を有効利用し、観

光事業の推進を行っていく。

原 義裕議員 「おうら祭り」を町最大のイベントとして見ているか聞きたい。

町長 当然、町を挙げての、町民皆さんの憩いの夏祭りとして考えている。

原 義裕議員 「おうら祭り」のフィナーレを飾る花火の打ち上げについて、観光の目玉としているか。また、観光誘客についての考えを聞きたい。

町長 観光の一部にも当然入る。身近に見られることで、町内外の皆さんに大変期待され、誘客にも繋がっている。

原 義裕議員 この花火を目玉として、観光会社や鉄道会社に働きかけ、PRポスターやのぼり旗等を作り、町を挙げて誘客する

のか。

町長 今までもポスターは作られており、鉄道会社の駅舎等に掲示して、PRを図っている。

原 義裕議員 効果的に使用されていないのではないかと。予算を執行するだけでなく、品物も使い切つて欲しい。また、粉食文化の継承と体験できる参加型の観光ニーズが高まる中で、あいあいセンターの取り扱いについてどう考えているか。
町長 あいあいセンターに



邑楽町観光PRポスター

については、指定管理者制度に基づき、自主性に任せている。施設は町所有なので、管理者の考え方を尊重しつつ

つ考えていく必要がある。

その他の一般質問

・企業誘致の推進について

協働の町づくりについて

大野貞夫議員 過日の全員協議会で、協働の町づくり補助金交付要綱の説明があったが、その趣旨や目的について聞きたい。

町長 町民の多様な発想と工夫によって、地域の活性化に取り組み団体が主体的に行う魅力ある町づくり活動に対して、予算の範囲内で補助するものである。これにより、町民のふれあいを図り、新たな地域連帯意識の醸成と協働の地域づくりを推進することが目的である。

大野貞夫議員 町長の選挙公約、あるいはその時々の発言の中で、この協働の町づくりという言葉は、今に始まった事ではない。町長

に就任し5年4カ月経過したが、この間、具体的に協働の町づくりとして何をどのように進めてきたのか。

町長 例を挙げれば、社会福祉協議会の予算を利用し、各行政区で行われているサロンは、前へ進む糧となっている。

大野貞夫議員 それは最近の事である。私も再三、一般質問で取り上げたが、元気なお年寄りを増やしていく、これがひいては医療費の削減につながる。ますます高齢化していく中で、モデルケースとして「よっぴいがっせ」がだんだん注目され、今では町の話題の中にも上がるようになってきた。これからの町づくりは、

住民と行政が知恵と力を出し合いながら、住民同士のつながりの中で新たなサービスを提供する仕組みが必要である。多様なこれからの公共サービスの主体として捉える事が必要だ。そういう点で協働の町づくりを進める必要があると思うが。

話し合いができる場が必要

町長 これから益々地域の連帯意識は稀薄になり、高齢化に向かってお互いに助け合える、お互いに話し合いができる場が必要であり、そういった考え方に立って進めていきたい。

大野貞夫議員 基本的に協働の町づくりは、行政も議会も共有していくことが大事である。上からの目線ではなく、自ら参加できるような門戸を切り開いていくシステムが必要である。具体的には、行政と住民が目的と情報を共有して

地域社会の課題を解決していく。お互いに尊重しながら責任と役割を分担して、協働の町づくりを行っていく。こういうことが協働の町づくりだと思いが町長の考えは。

ぜび、参加型あるいは町からの問題提起等色々あるが、その時に応じての解決方法を見い出して、町づくり・地域づくりができていければと考えている。

その他の一般質問

・町の交通対策について

農業政策について

塩井早苗議員 上州名物がかあ天下と空っ風は昔から有名であるが、このところの異常に発達した低気圧は、北海道の東付近で960ヘクトパスカルまで発達し、まさに台風並みであった。この自然現象には打つ手がない。嵐が去るのをひたすら待つばかり。この強風で畑地から乾燥しきった土が舞い上がり、砂嵐になつていた。なぜ畑地から土が舞い上がるのか。それは作物が作られていないか、蒔いてある麦もまだ風を避けてくれるまでに成長

していない現状がある。現在、日本の農業及び邑楽町の農業は、農業従事者の高齢化や後継者不足、そして耕作放棄地の増加など、多くの問題が山積し、今後5年、10年先の農業の展望が開けない地域が増えていると聞いている。町の農地面積と裏作として麦の作付けをしている面積、耕作放棄地の面積と現状は。

産業振興課長 町の耕地面積は1520ha、田は1230ha、畑は290haである。米の作付けを行った水陸田の59%に当たる693

haについて、裏作として麦の作付けが行われている。他に畑地への麦の作付けが行われている。耕作放棄地は約8haが確認されている。

塩井早苗議員

日本の農業就業人口は、毎年十数万万人減り続けている。町の農家数や従事者の年齢・後継者数については、また、集落営農や農業法人の数と抱える問題は。

産業振興課長

一年間の販売額が50万円以上の農家が877戸で、主に自営の販売農家が927人。そのうち70歳以上の従事者が461人で全体の50%。40歳以下の後継者は12名。集落営農組織は、光善寺、藤川、渋沼、坪谷・八丁の4組合がある。組合法人は、中野農事組合と長柄農事組合の2カ所。認定農業者は72人が登録。集落営農組織の問題点は、次期のリーダーや後継者不足、農業機械のオペレーター不足、圃場の分散、組合員の高齢化、高額な大型農業機械導入の資金不足などがある。

塩井早苗議員 農業従事者の高齢化等、これらの問題に対する町の対策は。

魅力ある農業プランの策定

町長 土地を集約し、集落組織の強化と法人化を図り、若い後継者が魅力ある農業として進めて行けるようなプランを策定し、農業振興を応援していきたい。

塩井早苗議員

強い西風に

町長の政治姿勢について

本間恵治議員

平成24年第一回定例会において、事前の全員協議会で何の話もなく、中央公民館建設準備事業費6万8000円の予算を計上した。少ない予算であれば黙って通ってしまうだろうという気持ちがあったのか、私に指摘されて初めて町長が謝罪した。新規

よる土ぼこりで、水路や道路が埋没してしまう被害を防ぐため、また、麦やレンゲ、フェアリーベッチ等を作付けするための町の支援策は。

町長

麦の作付けは、売り渡し価格が低価格なため、作付けを困難にしている現状がある。農地に作付けするため、認定農家や集落営農の皆さんに協力をお願いしていく。道路に蓄積した土は、地域の方の協力を頂きたい。具体的な支援は今後の研究課題である。

事業であれば、常任委員会

で説明し、全員協議会に諮り、そして議会に上程して、賛否を問うというのが本来のあり方である。町長は、協働の町づくりと立候補した当初から言っている。議会議員は町民の代表である。議会と執行側がお互いに政策をぶつけ合いな

東京五輪招致活動に想う

休憩室

REST ROOM



佐藤 好文 (前原・4区)

東日本大震災から2年がたった。地震・津波・原発事故・風評被害に苦しむ福島県民は、今、何を思っているのだろうか。

報道によれば、未だ、約5万4000人に及ぶ避難民、毎日3000人を超える高線量下での作業員、風評被害に苦しむ農水産業従事者。

このような中で、「復興だ」「絆だ」などと叫ばれているが、生活するに必要な環境整備・産業振興・放射性廃棄物の処理などの課題が山積している。にもかかわらず、政府・東京都・スポーツ選手をあげて東京五輪招致活動が行われている。そして、招致することで、対外的に復興・再興をアピールしようとしている。

私は、このようなイベントで東日本大震災を風化させてしまうのではないかと危惧してならない。今一度「真の絆」を国民一人ひとりが冷静に見つめ直さなければならぬと想ってやまない。

がら、一つのいい方向に導いていく。それが町長としての役目だと思うが、議会へ事前に提案されることは少ない。無いに等しい。町長は、今まで予算が審議される前の全員協議会に初めて提案し、何でもいいからこれを議決して欲しいという姿勢で予算執行をしている。それが協働の町づくりなのか。協働、協働と常々言っているが、決して協働の町づくりにはなっていない。今後のこともある。よく考えた中で、全員協議会で議員の考えを集約し、一つの方向性を出せば、より強い執行体制が組めると思う。私一人で議会が何か変わるものでもない。賛成多数で可決されている。私は提案者に幾度もなっている。動議も出した。自分の気持ちや議員の皆さんに訴えて、私が言っていることが正しいと思うから趣旨説明をし、質疑を受け、諮っていたら聞いています。私は、少しでも町が良くなればいいということ念頭に置きながら誠実に訴えてきた。

過去の議会であれば、25年度の予算は通らないかもしれない。財政調整基金の取り崩し一つを考えても、賛成、反対、最終的には議決されるわけであるから、それには従わざるを得ない。町民のことを思って、私も代弁している。町長が、中央公民館をつくるという公約を掲げ、当選してきたのであれば、胸を張って任期中に成し遂げるといふ姿勢を見せればいい。少ない予算を上程し、議会で可決されたからみんな賛成してくれた。そういう対応の仕方は、一番好ましくない行いだと思うが。

議員へ事前に説明する

町長 議員へ事前に説明をし、十分理解していただいた上で提案すべきだということについては、大変ご迷惑をおかけしている。今後は、そういったことを踏まえて、できるだけ詳細にわたって議員の皆さんに説明をした中で、ご理解いただきたいように考えていきたい。

ホームヘルパー

育成事業推進を

小島幸典議員 ヘルパーの資格を取得する人の支援をどうしたら拡大していけるか、町長に聞きたい。
町長 平成14年から、大泉町・邑楽町・千代田町、3町の社会福祉協議会等で行っ

ている。邑楽町では平成14年から11年間で、103名が資格を取得した。そういう点では、高齢化社会に対応した資格取得者の養成は、現在も行われていると考えている。

心伝える絵手紙とともに

休憩室

REST ROOM



吉田 佳予子 (十三坊塚・6区)

20年以上続く私の趣味は絵手紙。割り箸やサインペン、筆を使い葉書に季節の花、身近な物、食事のメニュー…印象に残った物を何でも描いて、相手に伝えたい事、自分の気持ち等の言葉を添えます。ちよつとしたアイディアを形にして送った時、相手が驚いたり喜んだりしてくれた時は「やったあ」と一人ニヤニヤしたりもします。

人生の先輩数人が私の絵手紙を楽しみにしてくれているので、月に10枚くらい描き送っています。私のことは忘れてしまった方も、私の花の絵手紙を「綺麗ね。綺麗ね。」と何時間も離さず眺めてくれるそうです。そんな時、心ではつながっているんだと感じます。

邑楽町に住んで50年。ふる里を省みる余裕なく過ごして来ましたが、退職した今、自然豊かな、ゆったり時の流れるこの町に暮らす幸せを、絵手紙を通して感じている今日この頃です。

小島幸典議員 平成14年から平成24年までの11年間で、103人の資格者を育てた。多いか少ないか、自分の心に問うて、お聞かせ願いたい。

町長 受験をする希望者に関係するので、取得希望者がいなければ、資格取得者は少ないということになる。議員がどのような判断をされているかわからないが、年10人ほど取得している。多い少ないということについては、議員の判断にお任せしたい。

小島幸典議員 千葉県市川市は、年間に約1000人のヘルパーを養成している。邑楽町は1年に10人くらいの資格者養成である。20年後は、3人に1人が60歳以上となり、介護を必要とする社会がくる。この資格の試験はいつあるのか。

小島幸典議員 年間10人では少ないのでは。資格試験を宣伝して、夏休み中の大學生、また、小学生を育て

ているお母さんが、学校の夏休や冬休みを利用して、講習が受けられるのか、その辺の夢がなければ20年後の町の福祉行政は成り立たない。町長は最高の権力者で、提案もでき、検討委員会もできる。今から手がけていくことで雇用も生まれ、資格のある人がお年寄りのコミュニティの中に入ることによって、楽しい生活ができると思うが。

町長 資格の取得については、今大学の話もあつたが、福祉学校においては、そういう資格を取得できる養成コースもある。11年間で103人という数字は、学校以外の受験者であり、取得者である。組織については、これからの高齢化社会を考えば、学校や地域においても要請が必ず来るであろうし、それに備えて既に社会福祉協議会で体制づくりをしており、不足だということになれば十分内容を検討する。

小島幸典議員 組織づくりはタイミンが重要だ。受

験料は個人負担2万円くらいかかると思う。10人ならば20万円である。町で助成金を考えて、早急に受験者の拡大をしていただきたい。

関係機関に要請

町長 全体の講習料は平成15年から3万円になっていく。講習会の希望者が多く、

町の現況と東毛での将来の邑楽町について

開催数が少ない場合、取得者の便宜を図ることを考え、社会福祉協議会にそういった要請は十分可能で、状況を把握する中で社会福祉協議会にもつなげていきたい。

その他の一般質問

- ・中央公民館建設計画の見直しを

小沢泰治議員 第五次総合計画の中で町の人口を見れば、平成27年度中には2万9000人の人口設定がしてあるが、平成25年3月1日現在、2万7505人である。町長の1回目の選挙のときから毎年、町の人口は減り続け、増やすことができない。近い将来、邑楽町がどのようなか推して知るべしである。邑楽町は地理的、地域的に東毛の

中心である。町の位置、地勢を考えてみてどのようなことができるのか。

町長 東毛の地における邑楽町の地勢は、大変住み良く、他の市町に負けないところだと認識している。そのような状況でどのような行政執行ができるかであるが、やはり住民の皆さんに直結した行政需要を施していかなければならない。

小沢泰治議員 広域的社会資本の充実のために何をすればよいか。公民館ホールの件もそうだが、東毛地

小沢泰治議員 総合計画を見れば、それが実現されていない。すばらしい地域の邑楽町を生かすことができず、なぜ人口も低迷しているのか。

町長 私が町長になってから年々人口が減っているということについては、私の施策にもそれはあるかもしれないが、少子高齢化ということが大きな原因と考えている。

小沢泰治議員 人口の減少が続く現状の邑楽町をどのようにしたら増やせるか。町としてどういう環境づくりをしていくべきか。

町長 いわゆる産業集積地等については、具体的に県と連絡をとり合っている。今後、結果がどうなるかわからないが、それが将来的に今議員が懸念されているところに結びつけば、ありがたい。

小沢泰治議員 広域的社会資本の充実のために何をすればよいか。公民館ホールの件もそうだが、東毛地

議会の動き

2月

- 6日 邑楽郡町村議会議長会臨時会
- 7日 総務教育常任委員会、全員協議会
- 14日 邑楽郡町村議会議長会議員研修会
- 20日 群馬県町村議会議長会定期総会
- 25日 議会運営委員会
- 26日 総務教育常任委員会、産業福祉常任委員会
- 27日 全員協議会
- 28日 西邑楽土地開発公社邑楽町事業所審議委員会

3月

- 8日～19日 定例会
(本会議、議会運営委員会、全員協議会、各常任委員会
広報委員会)
- 13日 中学校卒業式
- 21日 幼稚園修了式
- 22日 小学校卒業式、大泉町外二町環境衛生施設組合議会
西邑楽土地開発公社理事会
- 23日 保育園卒園式
- 25日 太田市外三町広域清掃組合議会
- 27日 館林地区消防組合議会、邑楽館林医療事務組合議会
- 28日 東毛広域市町村圏振興整備組合議会
邑楽郡町村議会議長会定期総会

4月

- 2日 広報委員会編集会議
- 5日 保育園入園式
- 8日 小・中学校入学式
- 9日 幼稚園入園式
- 15日 広報委員会校正会議
- 18日 総務教育常任委員会、全員協議会

一生懸命
頑張っていく

域で主導権が握れる人間、リーダーシップがとれないようでは邑楽町民の幸せはないと思う。町長が東毛でリーダーシップをとるためには、どのようにしたらよいか。

町長 東毛の地は、東西に大きな市もあり、郡内にも5町がある。頑張る気持ちは負けない。他の市町に負けないように一生懸命頑張っていく。

その他の一般質問
・邑楽町の観光資源である白鳥の飛来について

自治功労者表彰

永年勤続により、小島幸典議員が群馬県町村議会議長会から自治功労者表彰を、長会から自治功労者表彰を、本間恵治議員が群馬県知事から感謝状をそれぞれ受けられました。
今後、町発展のため、一層のご活躍を期待します。



群馬県知事表彰
本間恵治議員



群馬県町村議会議長会表彰
小島幸典議員

議会を傍聴しませんか

次の議会は、6月12日から18日を予定しています。(開会は原則、午前10時)
住所・名前・年齢を受付簿に書くだけでどなたでも傍聴できます。役場庁舎1階ロビーのテレビにおいても、本会議の様相を中継していますので、お気軽にご覧ください。議会の会議録(議事の経過をそのまま記録したもの)は、図書館、邑楽町公民館、産業研修会館(長柄公民館)、勤労青少年ホーム(ヤングプラザ)に置いてあります。また、ホームページにも会議録全文を掲載していますので、ご覧ください。URL <http://www.town.ora.gunma.jp/chosei/gikai>
詳しくは、議会事務局まで 88-5511 (内線300)

わたしのふるさと

こうざ さむかわまち 【神奈川県高座郡寒川町】

大川由明
(前谷東原・2区)



寒川神社

私のふるさは、神奈川県高座郡寒川町です。神奈川県の中央部を流れる相模川の河口から上流6kmの左岸に位置し、海には面していませんが、サザンと同じ湘南地区の一角に入っています。

寒川と言えば、町の中央部にあります、相模一之宮の寒川神社が有名です。八方除けの神として知られ、一年を通して多くの人が参拝に訪れています。その他の史跡

として、源頼朝の一命を救い、鎌倉幕府を開くことに大きく貢献した、梶原景時の屋敷跡などもあります。

また、寒川神社の神事として、湘南茅ヶ崎に夏の到来を告げる、7月の海の日に毎年開催される「浜降祭はまおりさい」があります。夜明けとともに、寒川町と茅ヶ崎市の各神社から大小合わせて40基余りの神輿そうしゅうが集まります。「どっこい、どっこい」という相州神輿独特の掛け声も勇ましく、砂浜狭しと乱舞する光景や神輿が海に入る「みそぎ」の儀式はとても幻想的で、スケールの大きなお祭りです。毎年、この時期を楽しみにしていたことを思い出します。

ぜひ一度、この壮大な「浜降祭」を一見されることをお勧めします。

田口茂雄前事務局長

大変お世話になりました
議会広報委員会



左から 坂井委員 神谷委員 原委員 立沢議長
半田委員長 田口前事務局長 松村委員
塩井委員

参加表明により議論がなされ、景気の底割れ回避とデフレからの早期脱却及び成長力の強化を図っています。議会では平成25年第一回定例会が、去る3月8日から19日までの12日間、開かれました。新年度予算等が表決され、老朽化した中央児童館や長柄幼稚園の改築が予定されました。一般質問では、10人の議員から町政運営や町の将来について質問が行われ、限られた財源を効率的で最大の効果を上げるよう要望がありました。また、議会事務局では、議会だより発行に9年間の長きにわたり、ご協力いただいた田口茂雄前事務局長が定年退職されました。広報委員会では、今後とも皆様のご支援をいただき、今まで以上に愛読されるよう努力していきます。(原記)

編集 後記

新年度を迎え、忙しい4月が過ぎ、辺りの木々には若芽が膨らみ、陽射しも眩しくなりました。国では、TPPへの